

学位に付記する専攻分野の名称の在り方検討分科会の審議状況

基本的な立場

日本の学位が国際的通用性を確保するために、学位に付記する専攻分野の名称に関する基本的な考え方と在り方を、日本の科学者コミュニティを代表する日本学術会議の立場から提言

学術会議による提言

○ 射程

- ・学位制度の構造と体系性に配慮し、学士のみならず修士、博士、専門職学位も射程
- ・日本学術会議から文部科学省高等教育局への「回答 大学教育の分野別質保証の在り方について」（平成 22 年 7 月 22 日）の基本的な考え方に準拠
 - (1) 大学の個性化・特色化に伴う教育の多様性の良い面が損なわれないよう配慮
 - (2) 教育内容に対する大学の自主性・自律性を尊重
 - (3) 学生の視点に立ち、大学で専門学術分野の基礎を学ぶ意義を明確化

○ 方向性

- ・学位に付記する専攻分野の名称は、学位を与える課程（プログラム）を反映した、合理性、妥当性（適切性）、国際性を備えたものとする
 - 学位に付記する専攻分野の名称と、教育組織上の分野の名称は、かならずしも同一であることは求められていない
- ・シンプルな仕組みを基本とする
- ・国際的通用性の観点から、学位の英名表記に対する共通方針を提示する
 - 欧米主要国における学位の英名表記が、①レベル（Bachelor, Master, Doctor）、②拠って立つ学問分野、③さらに教育課程編成上の重点分野、を階層的に「① of ②」ないし「① of ② in ③」という形であらわす構造をなすことによって、国内外の通用性を確保している点に留意する
- ・学位の和文表記に、英名表記の階層性の考え方を投影する
 - 学士の学位に付記する専攻分野の名称は、学生が学士課程で重点的に学ぶ学問分野と、教養教育・共通教育からなる教育課程（カリキュラム）の全体的な構成に目を向け、コアとして何を学んだかが的確に表されるものとする。ただし、その名称は、関連する分野で一般性かつ通用性のあるものとする。（また、学際・複合分野のカリキュラムの場合は、構成要素となっている分野を複数並列することも必ずしも排除しない。）

学位に付記する専攻分野の名称の望ましい在り方

- ・英名表記に対する一定のルール化
 - (1) 学士、修士、博士のレベル制を維持すること
 - (2) 分野名は学問体系が確立した、上位の学問分野の名称をもって充てること
 - (3) 下位の専門分野（具体的な重点分野）を示すことをある程度容認すること例えば、(1) of (2) in (3) の階層化の適用
 - あるいはディプロマ・サプルメント（学位証書補足資料）の併用によって教育課程編成上の特性を表し、学位の英名表記に細かな専門分野を記さない手法をとることも考えられる
- ・学位の和文表記にも階層性の考え方（コアとなる学びの分野）を投影